

<司令官ケネス・メイナー大佐の2021年2月7日のビデオメッセージ（要約）>

列王記上 18 章には預言者エリヤがたった一人で 450 人のバアルの預言者に立ち向かった姿が記されています。エリヤは祭壇を築いてこう祈りました。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ、あなたがイスラエルにおいて神であられること。またわたしがあなたの僕であって、これらすべてのことをあなたの御言葉によって行ったことが、今日明らかとなりますように」「わたしに答えてください。わたしに答えてください。主よ、わたしに答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたが神であり、彼らの心を元に返したのは、あなたであることを知るでしょう」そのようにエリヤが祈ると、主の火が降って、焼き尽くす献げ物と薪、石、塵を焼き、溝にあった水をもなめ尽くしました。エリヤが捧げた祈りは短いものでしたが、神は大いなる力をもって答えてくださいました。ここから第一に学ぶのは、唯一の真の神がおられることです。エリヤの時代の人々は多数の神々に祈っていました。現代の教会でも似たような惑わしがあるかもしれません。しかし私たちクリスチャンは、イエスだけが道であり真理であり命であると信じています。イエスさまプラス何かではないのです。その点で、唯一の神に祭壇を捧げたエリヤの姿勢に学びましょう。第二に学ぶことは、祈る時に大声で祈る必要は無いということです。バアルの 450 人の預言者は大声で必死に叫び、祈りましたが、その祈りは聞かれませんでした。しかしエリヤは静かに祈りを捧げ、その祈りは天の神の御座に届いたのです。同じように、あなたが小声でつぶやくどんな祈りも、神は聞いていてくださいます。第三に学ぶことは、信じることです。バアルの預言者も真剣に信じていましたが、彼らの祈りは聞かれませんでした。しかしエリヤは、祈り求めたことをはるかに超えてかなえて下さる真の神を信じて祈りました。あなたも祈るときに、神が必ず答えてくださると信じて、祈っていただきたいと思います。最後に学ぶことは、希望があるということです。エリヤは飢え渴きにあっても、神によって全ての必要を供給されて生きてきました。だからこそエリヤは、必ず神が祭壇に火を下して下さると確信して祈ったのです。あなたの祈りを聞いておられる神は、天の父なる神であり、恵みとあわれみに満ちておられ、あなたの必要をすべて供給して下さるお方です。それゆえに、あなたの祈りは聞かれるのです。